

獣医学共用試験準備委員会総会 議事録 修正第二版 平成 23 年 12 月 1 日

-16 大学委員と代表者の認識と意識の共有化をめざして-

日時 平成 23 年 11 月 25 日（金）午後 1 時から午後 5 時 15 分

場所 東大農学部 3 号館 4 階教授会室

出席者 帯広畜産大学 北村 延夫教授 佐々木 直樹准教授
北海道大学 橋本 善春教授 片倉 賢教授
岩手大学 橋爪 一善教授 中牟田 信明准教授
東京大学 尾崎 博教授 望月学准教授
事務局 久和 茂教授 堀 正敏准教授
東京農工大学 竹原 一明教授 渡辺 元教授
岐阜大学 北川 均教授 鈴木 正嗣教授
鳥取大学 澁谷 泉教授 村瀬 敏之教授
山口大学 佐藤 宏教授 佐藤 晃一教授
宮崎大学 片本 宏教授 保田 昌宏 准教授
鹿児島大学 川崎 安亮教授 窪田 力准教授
大阪府立大 稲葉 俊夫教授 岡田 利也教授
酪農学園大学 林 正信教授 山下 和人教授 遠藤 大二教授
北里大学 吉川 泰弘教授 岡野 昇三教授 高井 伸二
麻布大学 浅井 史敏教授 藤井 洋子准教授
日本大学 鎌田 寛教授 上地 正実教授
日本獣医生命科学大学 鷲巢 月美教授
教務課長 古山 泰二 及川 なつみ 以上 37 名

1. 第一部 講演会

最初に、出席者の自己紹介を頂き、出欠確認とした。

1) 総会開催にあたり始めのご挨拶：吉川全国協議会会長

2) 講演会：先行事例に学ぶ（1 時 15 分～2 時 40 分）

＜薬学における CBT 運用・支援システムの構築に関する話題＞

薬学共用試験センター理事 宮崎 智教授（東京理科大学薬学部）

ご講演の後、活発な質疑応答を頂き、40 分ほどオーバーして第一部が終了した。

休憩（2 時 40～2 時 50 分）

2. 第二部：小委員会の今後の運動方針などに関する協議（2 時 50 分～5 時 15 分）

1) 共用試験：これまでの経緯と今後の進め方 高井（北里大）

資料 3 を用いて、これまでの経緯と今後の進め方についての説明があった。

2) ◎コアカリと CBT 問題内容検討委員会：尾崎先生（東大）

佐藤晃一先生（山口大）から資料 4 を用いて、16 大学カリキュラム年次進行調査結果と共用試験実施時期に関する報告があった。16 大学で、この報告書をご確認頂き、各大学の実施時期についてご検討頂きたい（宿題）。

尾崎先生から、CBT 試験の出題範囲となる科目について説明があった。

現在、共用試験範囲とならない項目に△をつける作業を行っている。これを 24 年度版として来年 3 月に刊行する。

1. 導入科目（3 科目）

獣医学概論 獣医倫理・動物福祉学 獣医事法規

コアであるが必ずしも筆記試験で確認する必要性がないものが半分程度あり、これらに△がつく。

2. 基礎科目（10科目）

解剖学 組織学 発生学 生理学 生化学 薬理学 動物遺伝育種学 動物行動学 実験動物学 放射線生物学

コアであるが必ずしも筆記試験で確認する必要性がないものが少数あり、これらに△がつく。

2. 病態科目（7科目）

病理学 免疫学 微生物学 家禽疾病学 魚病学 動物感染症学 寄生虫病学

コアであるが必ずしも筆記試験で確認する必要性がないものが少数あり、これらに△がつく。

3. 応用科目（8科目）

動物衛生学 公衆衛生学総論 食品衛生学 環境衛生学 毒性学 人獣共通感染症学 疫学 野生動物学

コアであるが必ずしも筆記試験で確認する必要性がないものが少数あり、これらに△がつく。

4. 臨床科目

内科学総論 臨床病理学 外科学総論 手術学総論 麻酔学

上記5科目はすべての項目が出題対象となる。

呼吸循環器病学 消化器病学 泌尿生殖器病学 内分泌代謝病学 臨床栄養学 神経病学 血液免疫病学 皮膚病学 臨床行動学 軟部組織外科学 運動器病学 臨床腫瘍学 眼科学 画像診断学 産業動物臨床学 馬臨床学 臨床繁殖学

上記の臨床系各論科目は、前半部分（中途にあるものもある）に書かれている総論的記載の項目が出題対象となり、その他には△がつく。産業動物臨床学、臨床繁殖学はかなりの部分が対象となるのではないかと思う。各科目で統一的な書きぶりになるように作業中。

3) 共通テキストの進捗状況（進まない科目の問題点）：橋本先生（北大）

資料5を用いて共通テキスト進捗状況の説明があった。出版第一号は、「疫学」のテキストで近代出版から平成23年3月末に刊行とのこと。平成25年度入学者が利用できるように準備をお願いしたい。

4) ◎CBT問題作成委員会の進捗状況（VetCBT実施案について）：浅井先生（麻生大）

資料6を用いてトライアルに対応した問題募集と問題精選の作業時期が説明された。次に問題作成に関する説明があったが、宮崎先生のご講演により、全体の流れが理解されていたため、スムーズに問題作成の注意事項などの細部の説明がなされた。

5) ◎広報委員会（CBTのシステムをどうするか？）：遠藤先生・山下先生（酪農大）

資料8を用いてCBTシステムをどのように構築するか説明があった。外部依頼、独自開発、他分野システム利用など、それぞれの利点、問題点を詳しく説明されたが、宮崎先生から、薬学システムの利用を含めた暖かいご支援の申し出もあり、今後はこの選択肢を含めて、さらに、詳細検討に移ることとした。

6) OSCE準備委員会（今後の進め方）：北川先生（岐阜大）

〈医学・獣医学におけるOSCEに関する話題〉鷺巣 月美先生（日本獣医大学）

最初に、資料7のスライドを用いて、鷺巣先生から医学部OSCEの概要、日獣大の臨床コミュニケーション教育の取組について説明があった。

続いて、北川先生からOSCE準備委員会の抱える問題点（小動物と大動物の分野でOSCE

をどのように準備するかなど) などのご説明があった。

7) トライアル実施委員会 (今後の進め方) : 鎌田先生 (日大)

資料9を用いてトライアル実施期間の概要が説明された。対象学年と実施時期については、資料4の佐藤晃一先生 (山口大) からの説明もあり、今後の検討課題となった。

9) その他

1) 共用試験準備委員の担当について希望調査を取った。詳細は別紙参照

2) 小委員会のメンバーを希望調査から決めさせて頂き、それぞれの小委員会で活動を開始することとした。

3) 最後に、吉川先生から「新しい獣医学教育の方向性と獣医学教育者の責務に関する声明」でも述べているように、「獣医学教育を担う、我々自身の問題である」とのメッセージを頂いた。

以上